

〈結果状態〉を表わす「テイル形」 —韓日両言語の比較対照の観点から—

金 情浩

キーワード: 「テイル」, 「-어 있- (eo iss) / -있- (eoss)」, 達成動詞, 結果状態

1.はじめに

本稿では、韓日両言語における〈結果状態〉を表わす「テイル形」¹⁾の対応形式に見られる相違について考察する。出来事が終わったあとの〈結果状態〉を表わす形式として、韓国語には「-어 있- (eo iss) / -고 있- (go₂ iss)」²⁾形が、日本語には「テイル」形があることがよく知られている(例1、例2)。

- (1) a. 창문이 열려 있다. (changmun-i yeollyeo issda.)³⁾
b. 窓が開いている。
- (2) a. 아유미는 핑크색 브라우저를 입고 있다.
(Ayumineun pingkeusaeg beulla-useuleul ibgo₂ issda.)
b. 亜由美はピンクのブラウスを着ている。

しかし、話し言葉になると必ずしも例(1)(2)のように、日本語の「テイル」形と韓国語の「-어 있- (eo iss) / -고 있- (go₂ iss)」形とが絶対的に対応しているとは言えない場合がある。すなわち、例(3)(4)のように日本語の「テイル」に韓国語の過去形の「-았- (eoss) / -았 (ass) / -였- (yeoss)」形が対応する場合がある。

- (3) (雨が降っているのに、太郎の部屋の窓が開いているのを見つけて母が)
a. 타로우야, 창문 {열렸네 / 열려 있네}
Taro-ya, changmun {yeollyeossne / yeollyeo issne}.
b. 太郎、窓 {*開いたよ / 開いてるよ}。

(4) (さっきまで降っていた雨が止んでいるのに気づいて)

a. 어, 비 {그쳤네／?*그쳐 있네}

eo, bi {geuchyeossne／?*geuchyeo-issne}.

b. あ、雨 {*止んだ／止んでる}。

(例3)と(例4)は、それぞれ「窓が開いている状態が続いている」または「雨が止んでいる状態が続いている」という<結果状態>の相的意味を表わしている。上の例から窺えるように、同じ<結果状態>を表わすのに韓国語では、日本語の「テイル」の他に、過去形の「-있- (eoss)」が対応する場合もある。以下では、どのような環境で日本語の「テイル」に韓国語の「-어 있- (eo iss)」が対応し、またどのような環境で「-있- (eoss)」が対応するかについての考察を行う。ただし、活動動詞の進行(テイル)形は、<動作継続>を表わすので議論の対象としない。

2. 両言語における「テイル形」の対応関係

上で述べたように、<結果状態>を表わす日本語の「テイル」形に対応する韓国語の表現形式には、次の二つの場合が考えられる。すなわち、結果状態形の「-어 있- (eo iss)／-고₂ 있- (go₂ iss)」が対応する場合と、過去形の「-있- (eoss)」が対応する場合である。以下では、それぞれの対応形式について具体例を挙げながら考察する。

2.1 「-어 있- (eo iss)／-고₂ 있- (go₂ iss)」が対応する場合

<結果状態>を表わす日本語の「テイル」に対応する韓国語の表現形式のうち、結果状態形の「-어 있- (eo iss)／-고₂ 있- (go₂ iss)」が対応するのは、次のような例である。

(5) (道に1万円札が落ちているのを見て)

a. 어! 돈 {?떨어졌다／떨어져 있다}.

eo! don {?tteol-eojyeossda／tteol-eojyeo issda}.

b. オヤッ、お金が{?落ちた／落ちてる}。

(6) (司会者が田中さんを紹介するとき)

a. 오늘 다나카씨는 빨간 드레스를 {*입었습니다/입고 있습니다}.

oneul danakassineun ppalgan deuleseuleul {*ibeodsseumnida/ibkko
idsseumnida}.

b. 今日田中さんは赤いドレスを{*着ました/着ています} (生越 1995 : 192)

上の例は、ともに日本語の「テイル」に韓国語の過去形が対応すると不自然な文になるか非文となる。生越(1995)は、韓国語の「-어 있- (eo iss)」が日本語の「テイル」に対応する条件として、変化の成立自体が重要であるか、それとも変化の結果状態の存在が重要であるかをもって前者にフォーカスが当てられる場合は過去形の「-았- (eoss)」が、後者にフォーカスが当てられる場合は「-어 있- (eo iss)」が用いられると述べている。

また、生越(1997)には、日本語の「テイル」に韓国語の過去形(-았- (eoss))が対応する場合と、結果状態形(-어 있- (eo iss))が対応する場合について、次のような説明が見られる。

朝鮮語では、目の前の状況について、その状況が生じる際の経緯が把握でき、その状況を変化後の状態と位置づけられたとき、つまり、その状況がある出来事の結果部分として把握したときには過去形が使える。その経緯が把握できず、目の前の状況の位置づけがうまくできないとき、つまり、その状況をもとにして一つのまとまった出来事を再構築できないときには結果状態形を使う。(生越 1997 : 146)

しかし、次のような例は、一見すると上記の生越の議論に矛盾しているように思われる。

(7) (戦争現場で記者が)

a. 보시는 것처럼 많은 사람들이 {?죽었습니다/죽어 있습니다}.

bosineun geoscheoleom manh-eun salamdeul-i {?jug-eoss-seubnida/jug-eo
iss-seubnida}.

b. ご覧のとおりたくさんの方が死んでいます。

(8) (台風が過ぎ去った現場で記者が)

a. 여기에도 3척의 어선이 {??부서졌습니다/부서져 있습니다}.

yeogi-edo 3cheog-ui eoseon-i {??buseojyeoss-seubnida/buseojyeo iss-seubnida}.

b. ここにも三隻の漁船がつぶれています。

例(7)の「たくさんの人々が死んでいる」という状況は戦争の結果として起きた出来事であると把握でき、また、例(8)の「漁船がつぶれている」という状況も台風が通りすぎた結果として起きた出来事であると把握することができる。つまり、例(7)と(8)は、その状況のある出来事(戦争と台風)の結果部分として把握しているのにもかかわらず過去形の「-았- (eoss)」ではなく、結果状態形の「-어 있- (eo iss)」が使われている。ただし、この場合の「-어 있- (eo iss)」は出来事を一つのまとまりとして報告・伝達しているという意味合いが強く感じられる。

次に、生越 (1997) にも述べられているように、その出来事の具体的な情報量によって、過去形と結果状態形の使い分け方の予想が可能である。例(9)と(10)の相違は、その手袋に関する情報量に差が見られるという点である。つまり、(9)の例では問題の手袋が誰のものであるかという情報が欠けているが、(10)の例では落ちている手袋がBのものであるという情報が満たされている。このことは、(11)(12)の例にも当てはまる。

(9) (喫茶店でAB二人が話している。話が終わって立とうとしたら、テーブルの下にAのものでもBのものでもない、誰かの手袋が落ちているのにAが気づいて)

a. 장갑 {?떨어졌네/떨어져 있네}

janggab {?tteol-eojyeossne/tteol-eojyeo issne}.

b. 手袋 {?落ちた/落ちてる}。 (生越 1997 : 145)

(10) (喫茶店でAB二人が話している。話が終わってAが立とうとしたとき、テーブルの下にBの手袋が落ちているのに気づいた。Aがまだ座っているBに対して)

a. 장갑 {떨어졌다/?떨어져 있네}

janggab {tteol-eojyeossda/?tteol-eojyeo issne}

b. 手袋 {?落ちた/落ちてる}。 (生越 1997 : 145)

- (11) (道に1万円札が落ちているのを見て)
- a. 어! 돈 {?떨어졌다/떨어져 있다}.
eo! don {?tteol-eojyeossda/tteol-eojyeo issda}.
- b. オヤッ、お金が {?落ちた/落ちてる}。
- (12) (太郎と次郎が道を歩いていたら、前の人のポケットから財布が落ちた。太郎が財布を落とした人に)
- a. 지갑 {떨어졌는데요/?떨어져 있는데요}.
jigab {tteol-eojyeossneunde-yo/?tteol-eojyeo issneunde-yo}.
- b. 財布 {落ちましたよ/?落ちてますよ}。

上記の例から分かるように、情報量が欠けている場合は、過去形の「-있- (eoss)」が、情報量が満たされている場合は、結果状態形の「-어 있- (eo iss)」が、日本語の「テイル」にそれぞれ対応すると言える。言い換えれば、情報量が欠けているということは、それほど主観的に出来事を判断するしかないが、情報量が満たされているということは、出来事を客観的に判断できるということを意味する。出来事に対する主観性と客観性に関しては、生越の議論にも見られる (詳しくは、生越 (1995 : 197) 参照)。

- (13) a. 아까부터 집앞에 자동차가 {?멈췄네/멈춰 있네}.
akkabuteo jib-ap-e jadongchaga {?meomchwossne/meomchwo issne}.
- b. さっきから家の前に車が {*止った/止っている}。
- (14) a. 어제부터 창문이 {?열렸다/열려 있다}.
eojebuteo changmun-i {?yeollyeossda/yeollyeo issda}.
- b. 昨日から窓が {?開いた/開いてる}。

例(13)(14)は、<さっきから、昨日から>などのような副詞句から、過去のある時点から発話時点まで、過去の出来事が現在まで影響を及ぼしているということを読みとることができる。このように、過去のある出来事が発話時の現在まで強い関連性をもつとされる場合は、過去形の「-있- (eoss)」とは共起しない。

以上のことから、<結果状態>を表わす日本語の「テイル」に、韓国語の「-어 있- (eo iss)」が対応するためには、少なくとも次の三つの条件のいずれかが満たされなければならないということが分かる。

- (15) a. 出来事を一つのまとまりとして客観的に報告・伝達する場合 (例7、例8)。
 b. 出来事に対する十分な情報を持っていない場合 (例9、例11)。
 c. 過去の出来事が発話時点においても依然として (または、強い) 関連性をもつとされる場合 (例13、例14)。

2.2 過去形の「-었- (eoss)」が対応する場合

出来事が終わり、その結果が継続されているという<結果状態>の読みは到達動詞 (achievement verbs) と達成動詞 (accomplishment verbs) でしか得られない (例16)。しかし、日本語の達成動詞とは違い、韓国語の達成動詞の場合は、その出来事の<結果状態>の読みは過去形の「-었- (eoss)」でしか表わせない (例17、例18)。

- (16) a. 太郎が歌っている。 <活動動詞 (動作継続)>
 b. 猫が死んでいる。 <到達動詞 (結果状態)>
 c. 亜由美は100メートルを走っている。 <達成動詞 (結果状態)>

- (17) 太郎は5冊の本を読んでいる。
 a. *철수는 다섯권의 책을 읽고 있다.
 cheolsuneun daseosgwon-ui chaeg-eul ilggo₂ issda.
 b. 철수는 다섯권의 책을 읽었다.
 cheolsuneun daseosgwon-ui chaeg-eul ilg-eossda

- (18) 太郎は100メートルを走っている。
 a. *철수는 100미터를 달리고 있다.
 cheolsuneun 100miteoleul dalligo₂ issda.
 b. 철수는 100미터를 달렸다.
 cheolsuneun 100miteoleul dallyeossda.

このことから、従来の「<結果状態>を表わす日本語の「テイル」に、韓国語の自動詞の場合は「-어 있- (eo iss)」が、他動詞の場合は「-고 있- (go₂ iss)」が、それぞれ対応する」という一般化は、再考が必要であると言える。

(19) (さっきから激しい雨が降っていたが、しばらくしたら雨が止んだ。それに気づいた太郎が)

a. 비 {그쳤다/?그쳐 있다}.

bi {geuchyeosssa/?geuchyeo issda}.

b. 雨が止んでる。

(20) (買ったミカンを食べようとしたところ、腐っているのに気づいて)

a. {썩었네/?썩어 있네}.

{sseog-eossne/?sseog-eo issne}

b. {?腐った/腐ってる}。

(生越 1997 : 139)

一般に、過去形は、現在との関わりの薄い (または、ない) 単なる過去の出来事を表わす、と言われている。⁴⁾上記の例がその典型的なタイプであると思われる。とりわけ、韓国語の場合、<結果状態>は「-어 있- (eo iss)」よりは過去形の「-있- (eoss)」で表わされる傾向があるようである。⁵⁾

(21) (電車の中で、前の座席の人の財布が落ちたのを見てすぐ、落とした人に)

a. 지갑이 {떨어졌는데요/?떨어져 있는데요}.

jigab-i {tteol-eojyeosneunde-yo/?tteol-eojyeo issneunde-yo}.

b. 財布が {落ちましたよ/?落ちてますよ}。

(生越 1997 : 140)

(22) (太郎が溺れているのを見つけた次郎が)

a. 어, 철수가 물에 {빠졌다/?빠져 있다}.

eo, cheolsuga mul-e {ppajyeosssa/?ppajyeo issda}.

b. オヤッ、太郎が {*溺れた/溺れている}。

前述したように、発話者が出来事に対してどれほどの情報を持っているのかによって結果状態形の「-어 있- (eo iss)」と過去形の「-있- eoss」の使い分けが決められる場合がある。(21)と(22)の例がそれに当たる。(21)と(22)の例では、それぞれ<前に座っている人の財布>、<溺れているのは太郎である>という十分な情報があるので結果状態形の「-어 있- (eo iss)」ではなく過去形の「-있- (eoss)」として表わされる。

そして、回想や経験を表わす「テイル」は、すべて過去形の「-있- (eoss)」として表わされる(23、24)。それは、もともと韓国語には日本語の「テイル」とまったく同じ形で、回想や経験を表わす「テイル形」がないことから起因するものと見られる。⁶⁾

- (23) a. 영희는 벌써 {결혼했다/*결혼하여 있다}.
yeonghuineun beolsseo {gyeolhonhaessda/*gyeolhonha-yeo issda}.
b. 花子はもう結婚している。
- (24) a. 철수는 그 책을 3일전에 {읽었다/*읽고 있다}.
cheolsuneun geu chaeg-eul 3iljeon-e {ilg-eosssda/*ilggo issda}
b. 太郎はその本を三日前に読んでいます。

以上の議論をまとめてみると、<結果状態>を表わす日本語の「テイル」に韓国語の過去形の「-있- (eoss)」が対応するのは、次の四つの場合である。

- (25) a. 達成動詞 (accomplishment verbs) の場合 (例17、例18)。
b. 発話時との関連性が薄い (または、ない) 場合 (例19、例20)。
c. 出来事に対する十分な情報が満たされている場合 (例21、例22)。
d. 回想や経験を表わす場合 (例23、例24)。

3. おわりに

本稿では、<結果状態>を表わす日本語の「テイル」に、韓国語の「-어 있- (eo iss)」と過去形の「-있- (eoss)」の対応関係について考察した。本稿で論じたことをまとめてみると以下のようなになる。

- A. 「-어 있- (eo iss)」が対応するための条件
- 出来事の一つのまとまりとして客観的に報告・伝達する場合。
 - 出来事に対する十分な情報を持っていない場合。
 - 過去の出来事が発話時点においても依然として (または、強い) 関連性をもつとされる場合。

B. 「-있- (eoss)」が対応するするための条件

- a. 達成動詞 (accomplishment verbs) の場合。
- b. 発話時との関連性が薄い (または、ない) 場合。
- c. 出来事に対する十分な情報が満たされている場合。
- d. 回想や経験を表わす場合。

本稿で主張したいのは次の二つの点である。一つは、日本語の「テイル」に韓国語の結果状態形の「-어 있- (eo iss)」が対応する条件として、生越 (1997) には「その状況をもとにして一つのまとまった出来事を再構築できないときには結果状態形を使う」と議論されているが、そうでない例も見られる。もう一つは、今まで日本語の「テイル」に、韓国語の自動詞の場合は「-어 있- (eo iss)」が、他動詞の場合は「-고 있- (go₂ iss)」が、それぞれ対応すると言われてきたが、達成動詞 (accomplishment verbs) の場合は必ずしもそうであると言いきれない場合がある。本稿では、両言語の<結果状態>を表わす「テイル形」の使い方に見られる相違について論じたが、両言語のアスペクトの全体相の比較対照が必要であると思われる。それに関しては、今後の課題にしたい。

注

- 1) 日本語の「テイル」形と韓国語の「-고 있- (go iss)」形、「-어 있- (eo iss)」形について、特に区別を必要としない場合は「テイル形」と総称する。
- 2) 出来事が終わってその結果が続いているという<結果状態>を表わす日本語の「テイル」に対応する韓国語の対応形式は、主に「-어 있- (eo iss)」である。「-고 있- (go₂ iss)」が対応する場合もあるが、これは「입다 (着る)」「신다 (履く)」などの再帰動詞と結合した場合に限られている。<進行>を表わす「テイル」に対応する韓国語の表現形式の「-고 있- (go₁ iss)」と区別するため、本稿では<結果状態>を表わす「テイル」に対応する韓国語の表現形式を朴 (1998) に倣って「-고 있- (go₂ iss)」と表記する。
- 3) 韓国語のローマ字表記は、新しく改正された (文化観光部告示第2000.7.7) 表記に拠っている。

4) 「過去形」の文と「完了形」の文との間に見られる意味上の違いについて、町田 (1989 : 14) は次のように述べている。

「過去」と「現在完了」の違いは、前者が過去の事象を発話時点と関わりのないものとして提示するのに対し、後者では、事象が過去に成立していても、その結果が発話時点においても何らかの形で残っているものとして提示するということである。従って、同じ事象であっても、発話者がその結果が発話時点における状況に影響を与えていると考えれば「現在完了」が使用されるし、そうでなければ「過去」が使用されることになる。

5) 生越 (1997) と宋 (2001) に、詳細な分析が行なわれている。特に宋 (2001 : 70) には日本語と韓国語の地の文からのそれぞれ1800例を対象とした用例の比較が見られる。

6) 回想や経験を表わす日本語の「テイル」形に対応する韓国語の形式については、伊藤 (1990)、豊田 (2001) など参照すること。

参考文献

- 伊藤英人 (1990) 「現代朝鮮語動詞の過去テンス形式の用法について(1)一烈々形について一」、『朝鮮学報』131輯
- 金田一春彦 (1950) 「国語動詞の一分類」、同(1976)所収
_____ (1976) 『国語動詞のアスペクト』、むぎ書房
- 町田健 (1989) 『日本語の時制とアスペクト』、アルク
- 生越直樹 (1995) 「韓国語烈々形、해 있다形(하고 있다形)と日本語シタ形、シテイル形」、『研究報告集』16 国立国語研究所
- _____ (1997) 「朝鮮語と日本語の過去形の使い方—結果状態形との関連を中心にして—」、日本語と外国語との対照研究IV 『日本語と朝鮮語』下巻 国立国語研究所
- 朴徳裕 (1998) 『国語의 動詞相研究』、韓国文化社
- 宋美玲 (2001) 「日韓両言語における時間表現の対照研究—表現者の時間解釈の観点を中心に—」、韓国外国語大学博士学位論文
- 豊田文隆 (2001) 「パーフェクトを表すシテイタ形に対応する韓国語表現の一考察」、『韓国日本語学会』第3輯

(東北大学大学院博士過程)

kjungho7@hotmail.com